

平成28年度 第5次鯖江市総合計画推進にかかる施策方針

第5次鯖江市総合計画の着実な推進を目的として、平成28年5月に策定した施策方針の取組結果について、次のとおり報告します。

平成29年3月

教育委員会事務部長 軽 部 利 宣

1 総括

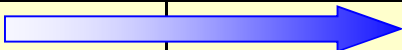
- 1 建築後30年余を経過した鯖江中学校、立待小学校および北中山小学校の屋内運動場の屋根改修、鯖江東小学校北校舎のトイレ改修（洋式化、バリアフリー化）、中央中学校グラウンドの改修等を行い、学校施設の長寿命化と教育環境の向上を図りました。また、福井しあわせ元気国体のなぎなた競技会場となる市総合体育館の耐震補強・床張替工事を行い、本大会施設の環境整備にも取り組みました。
- 2 地域を学び、生きる力を育むふるさと教育の推進に努めました。地域の歴史を知り、文化・自然に親しむことで郷土のすばらしさを実感するとともに、産業体験や職場体験、眼鏡デザイン実習、ものづくり博覧会参加等を通して、本市のものづくり産業に対する理解を深め、ふるさと鯖江を発展させようとする意欲や態度の育成に努めました。
- 3 食育を基盤とした、確かな学力、豊かな心、たくましい体を育む学校教育の推進に努めました。確認テストや新聞の活用とともに、ICTを積極的に活用した授業を推進して学力向上に努めるとともに、外部講師派遣による児童生徒の体力向上に努めました。また、研修会を開催するなど、防災教育の推進に努め、子どもの貧困問題に担当部局と連携して取り組みました。
- 4 幼児期の子どもたちが心も体も元気で健やかに育つために、遊びを通して基本的な生活習慣の定着や社会性・道徳性の基礎を培いつつ、健康な体づくりに努めました。特に、異年齢集団での活動を通して自立心を芽生えさせたり、小学校への円滑な移行を図るために幼稚園と小学校の交流事業の充実に努めたり、地域に開かれた園として子育て支援活動に取り組みました。また、担当部局と連携し、保護者や地域の理解を得ながら認定こども園の推進に努めました。
- 5 地区の公民館において、青年層を含めた多くの地域住民が集い、イベント等を通して子ども達と交流することを通して、地域での教育力の向上を図るとともに、青年層による自分たちの住むまちの活性化やこれからの地域づくりについて学び合いました。
- 6 地域の高齢者が仲間づくりの輪を広げ、交流や学びを通して生きる喜びを分かち合い、健康長寿で生き生きと勉学に励むとともに、クラブ活動や地域貢献にも積極的に取り組みながら交流を深め合いました。
- 7 文化の館では、多様化する市民の求める様々な分野の書籍等を購入し、図書・資料の貸出しやレファレンスの充実を行うとともに、図書検索サイト「さばサーチ」や本の場所が探せるアプリ「さばとマップ」のサービスを行い、利用者の利便性の向上を図りながら図書館の利用促進に努めました。
- 8 鯖江市美術展や企画展等の開催により、市民が身近に芸術文化に触れることができる機会を提供しました。また、今北山・磯部・弁財天古墳群の発掘調査、文化財の指定、企画展、歴史講座の開催等により文化遺産の保存・活用を図るとともに、ふるさと学習を推進しました。

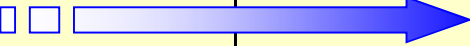
- 9 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の定期的開催、開放学校利用マニュアルの整備、スポーツ振興計画進捗状況の中間評価などを通じて多様な市民ニーズをくみ上げることで、誰もが身近な地域で気軽にスポーツに親しめる生涯スポーツ社会の推進に努めました。
- 10 昨年8月に開催した「福井しあわせ元気国体（体操競技）プレ大会」に向けたボランティア募集活動や花いっぱい運動を展開することにより、市民が自発的、積極的に参加できる機会を創出し、来年の本大会開催に向けた理解の促進と参加意識の高揚に努めました。

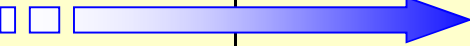
2 課題

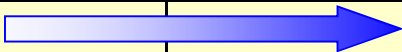
- 1 財政事情等から、今後、学校施設の大規模な改築が困難な状況を踏まえ、雨漏り対策等屋根や床等建物構造部の早期の改修やトイレ等の学校設備の更新を国の補助制度を活用しながら計画的に進め、施設の長寿命化を図り、教育環境の向上を実現する必要があります。
- 2 本市が世界に誇る産業への理解を深めるものづくり教育を推進しながら、郷土への自信と誇りを育むふるさと教育を充実させる必要があります。また、新学習指導要領の実施に向けて、ICT機器を活用した教育の取組みやプログラミング教育への対応、さらにはグローバルな人材育成をめざす英語教育の充実を図る必要があります。
- 3 幼児期の育ちや学びが小学校以降の教育の土台となります。幼児期の教育と小学校の教育が滑らかにつながるために、保幼小接続カリキュラムの全園での普及に努めていく必要があります。
- 4 公民館をはじめ社会教育施設や体育館等社会教育施設の老朽化に対応し、市民が安全に安心して利用できるよう、今後も耐震改修による施設の長寿命化および機能充実を図る必要があります。
- 5 来年開催の「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」に向けて、平成28年度開催の体操競技プレ大会の総括および平成29年度開催予定のなぎなた競技プレ大会の実施運営などから課題を整理し、着実な準備を進めるとともに、スポーツの感動を広め、明るい未来へつながる本大会となるよう、市民一人ひとりが様々な立場から参加できる市民運動の盛り上がりをさらに推進していく必要があります。

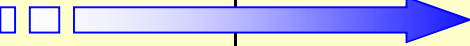
3 重点的に進める項目の取組結果

<取組項目> 	<取組結果>
1. 施設の計画的整備・改修 小中学校や幼稚園の学校施設の整備や改修、維持補修を計画的に行うとともに、文化・スポーツ施設の耐震化など適切な管理による施設の長寿命化、安全・安心の確保を図ります。 ◆ 小中学校屋内運動場の屋根改修（雨漏り対策） 3棟 ◆ 小学校のトイレの改修（洋式化、バリアフリーの推進） 1棟 ◆ 中学校のグラウンドの改修 1校 ◆ スポーツ施設の耐震化工事 1棟	【成果等】 目標を達成しました。 鯖江中の体育館屋根改修工事が9月に完了、立待小・北中山小の体育館屋根改修工事が10月に完了しました。鯖江東小のトイレ改修工事が9月に完了し、中央中学校のグラウンド改修工事が12月に完了しました。また、総合体育館の耐震補強工事が2月に完了しました。 ◆ 小中学校屋内運動場の屋根改修（雨漏り対策） 3棟[A] ◆ 小学校のトイレの改修（洋式化、バリアフリーの推進） 1棟[A] ◆ 中学校のグラウンドの改修 1校[A] ◆ スポーツ施設の耐震化工事 1棟[A]
2-1. ものづくりを核としたふるさと教育の推進 ものづくり体験等を通して地場産業の魅力を理解し、ふるさにと愛着を持てるよう、専門家の講演会を開催するとともに、小学校では地場産業製造体験や施設見学、中学校では職場体験やデザイン実習などに取り組みます。 ◆ ものづくりや歴史文化などふるさと理解のためのゲストティーチャーによる講演会・体験活動の実施 全小中学校で2回 ◆ 眼鏡、繊維、漆器の製作体験の実施 全小学校の1学年の全児童を対象に1回 ◆ 眼鏡のデザイン実習の実施 全中学校の1学年の全生徒を対象に1回 ◆ ものづくり博覧会への参加 全中学校の1学年の全生徒を対象に実施	【成果等】 目標を達成しました。 ものづくり体験等を通して鯖江の産業の魅力を理解し、ふるさにと愛着を持てるよう、専門家による講演会等を開催しました。また、小学校では地場産業製造体験や施設見学、中学校では職場体験やデザイン実習などに取り組みました。 ◆ ものづくりや歴史文化などふるさと理解のためのゲストティーチャーによる講演会・体験活動の実施 全小中学校で2回[A] ◆ 眼鏡、繊維、漆器の製作体験の実施 全小学校の1学年の全児童を対象に1回[A] ◆ 眼鏡のデザイン実習の実施 全中学校の1学年の全生徒を対象に1回[A] ◆ ものづくり博覧会への参加 全中学校の1学年の全生徒を対象に実施[A]
2-2. ふるさと学習の推進 先人から受け継いだ地域の歴史や文化を学び、また体験することにより、ふるさとへの愛着と誇りを持てるようふるさと学習に取り組みます。 ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催数 20回（地区公民館） ◆ ふるさと学習の参加者数 1,100人（まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、間部詮勝文化講演会等）	【成果等】 目標を達成しました。 先人から受け継いだ地域の歴史や文化を学び、体験することにより、ふるさとへの愛着と誇りを持てるようふるさと学習に取り組みました。 ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催数 35回[A]（地区公民館） ◆ ふるさと学習の参加者数 2,108人[A]（まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、間部詮勝文化講演会等）
3-1. 基礎学力の定着と体力の向上・防災教育 基礎学力の定着のために、児童の学習到達度を適切に把握し、課題克服のための指導の工夫・改善を行うとともに、ICT機器や新聞を積極的に活用した授業を推進し、一層の学力向上を目指します。また、学校体育の授業の充実と指導教員の資質向上を図り、児童生徒の体力の向上を目指します。さらに、災害時の危険を理解し、自らの安全を確保するために適切な行動がとれるような防災教育に努めます。 ◆ 自作の市確認テストの実施 全小学校1回 ◆ ICT機器を活用した公開授業 全小中学校2回 ◆ 普通教室のICT機器配置率 全小中学校80% ◆ 新聞を活用した授業の実施 全小中学校1回 ◆ こども用パソコンを活用したプログラミングの基礎実習の実施 小中学校7校 ◆ 体育実技講師の派遣 全小中学校1回 ◆ 【新】防災教育授業の開催 小中学校5回	【成果等】 目標を概ね達成しました。 市独自の確認テストを実施し、児童の学習到達度の把握や指導の工夫・改善を行いました。また、ICT機器や新聞を活用した授業を推進し、学力向上に努めました。学校体育の授業内容充実と指導教員の資質向上を図るため、外部講師を派遣し、児童生徒の体力向上に努めました。さらに、防災教育の授業の実施、防災かるた活用に関する研修会の開催など、防災教育の推進に努めました。 ◆ 自作の市確認テストの実施 全小学校1回[A] ◆ ICT機器を活用した公開授業 全小中学校2回[A] ◆ 普通教室のICT機器配置率 全小中学校83.6%[A] ◆ 新聞を活用した授業の実施 全小中学校1回[A] ◆ こども用パソコンを活用したプログラミングの基礎実習の実施 小中学校6校[B] ◆ 体育実技講師の派遣 全小中学校1回[A] ◆ 【新】防災教育授業の開催 小中学校5回[A]

<取組項目> 	<取組結果>
3-2 食育の推進 子どもたちの健全な心身の成長のため、食育を教育の基盤として位置づけ、その推進に努めるとともに、食文化と農業に対する理解を深めます。さらに、生産に携わる人や食材への感謝の念を育むため、地域との連携により各小学校の学校給食畑の活用を図りながら、地場産（鯖江産）野菜等の使用率の向上を目指します。また、健康面により配慮した学校給食を提供します。さらに、経済的困窮家庭の子どもへの支援について担当部局との情報共有を図ります。 ◆ 朝食摂取率 100% ◆ 学校給食の食育月間（6月・11月）における市内産食材平均使用率 30% ◆ 鯖江和膳の日・ミニ地場産デー・アイアンの日（鉄分強化メニュー）・歯っぴーの日（かみごたえのあるカルシウム強化メニュー）の実施 全幼小中学校11回 ◆ 経済的困窮家庭の子どもへの支援についての連絡会議 2回	【成果等】 目標を達成しました。 子どもたちの健全な心身の成長のため、食育の推進に努めました。食の安全安心の確保と農業への理解を深め、生産に携わる人や食材への感謝の念を育むため、地域との連携により各小学校の学校給食畑の活用を図りながら、地場産（鯖江産）野菜の摂取理解に努めました。また、健康な体づくりを意識した学校給食の提供に努めました。さらに、経済的困窮家庭の子どもへの支援について担当部局と情報共有しました。 ◆ 朝食摂取率 98%[A] ◆ 学校給食の食育月間（6月・11月）における市内産食材平均使用率 29.9%[A] ◆ 鯖江和膳の日・ミニ地場産デー・アイアンの日（鉄分強化メニュー）・歯っぴーの日（かみごたえのあるカルシウム強化メニュー）の実施 全幼小中学校11回[A] ◆ 経済的困窮家庭の子どもへの支援についての連絡会議 3回[A]
4. 幼児教育の充実・認定子ども園の推進 異年齢集団での遊びを通して、基本的な生活習慣の定着や社会性・道徳性の基礎を培いつつ、健康な体づくりに努めます。また、小学校への円滑な移行を図るため、幼稚園と小学校の交流事業の充実と努めるとともに、地域に開かれた園として子育て支援活動に取り組みます。また、担当部局と連携しながら認定子ども園の推進に努めます。 ◆ 園内異年齢交流活動の実施 各園 3回 ◆ 幼稚園と小学校の交流事業 200回 ◆ 園開放事業「遊びにおいで」の実施 各園 11回 ◆ 全幼稚園でのスタートアプローチカリキュラム（幼稚園と小学校の学びをつなぐ）の実施 全園 ◆ 認定子ども園関係者説明会 2回	【成果等】 目標を達成しました。 異年齢集団での活動を通して、基本的な生活習慣の定着や社会性・道徳性の基礎の育成、健康な体づくりに努めました。また、小学校への移行を円滑にするため、幼稚園と小学校の交流活動を積極的に実施しました。さらに、地域に開かれた園として子育て支援活動に努めました。また、担当部局と連携のもと保護者説明会を開催し、認定子ども園の推進に努めました。 ◆ 園内異年齢交流活動の実施 各園 3回[A] ◆ 幼稚園と小学校の交流事業 212回[A] ◆ 園開放事業「遊びにおいで」の実施 各園 11回[A] ◆ 全幼稚園でのスタートアプローチカリキュラム（幼稚園と小学校の学びをつなぐ）の実施 全園[A] ◆ 認定子ども園関係者説明会 4回[A]
5-1. 地域の教育力の向上 地域の小学生を対象に地域住民と子どもたちの交流を通して公民館等で合宿通学事業を行うことにより、地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成や地域の教育力の向上を図ります。また、子どもたちが郷土に誇りと愛着を持てるよう、ふるさと学習・食育への取り組みを進めます。 ◆ 公民館の利用者数 50万人 ◆ 公民館合宿通学事業の実施 ・子どもの参加者数 470人 ・ボランティアの参加者数 1,400人 ◆ 公民館食育事業の開催 3回 ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催数 20回<再掲>（地区公民館）	【成果等】 目標を概ね達成しました。 地域住民と子どもたちの交流を通して公民館等で合宿通学事業を行い、地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成や地域の教育力の向上を図りました。また、子どもたちが郷土に誇りと愛着を持てるよう、ふるさと学習・食育への取り組みを進めました。 ◆ 公民館の利用者数 40万人[B] ◆ 公民館合宿通学事業の実施 ・子どもの参加者数 427人[B] ・ボランティアの参加者数 1,144人[B] ◆ 公民館食育事業の開催 3回[A] ◆ 地域でのふるさと学習事業の開催数 35回<再掲>[A]（地区公民館）
5-2. 地域における青年活動の推進 各地区公民館で開催する青年交流事業を契機として、青年たちの相互理解や地域理解を深めるとともに、地域の活性化やまちづくりにつながるよう、地域における青年活動の活性化を推進します。 ◆ 地域青年交流事業の参加者数 5,000人 ◆ 勤労青少年ホームの利用者数 28,000人	【成果等】 目標を達成しました。 各地区公民館で青年交流事業を開催し、青年たちの相互理解や地域理解を深め、地域の活性化やまちづくりにつながるよう、地域における青年活動の活性化を図りました。 ◆ 地域青年交流事業の参加者数 5,986人[A] ◆ 勤労青少年ホームの利用者数 26,700人[A]

<取組項目> 	<取組結果>
6. 高年大学の活性化 健康長寿および社会貢献を目的として、カリキュラムを充実するとともに、大学の活動を地域の諸活動と連携するため、まちなか授業や課外授業などを「市民公開講座」として開催します。 ◆ 高年大学の利用者数 30,000人 ◆ 健康・体育関連授業の開催 65回 ◆ 社会貢献関連授業の開催 20回 ◆ IT推進講座 4回 ◆ 【新】地方創生講座の開催 3回 ◆ 公開講座の開催 24講座 800人	【成果等】 目標を概ね達成しました。 健康長寿および社会貢献を目的として、カリキュラムの充実を図りました。また、高年大学実施の全員学習、まちなか授業や課外授業などを「市民公開講座」として開催することで、大学と地域の諸活動との連携を図りました。 ◆ 高年大学の利用者数 33,400人[A] ◆ 健康・体育関連授業の開催 63回[A] ◆ 社会貢献関連授業の開催 18回[B] ◆ IT推進講座 12回[A] ◆ 【新】地方創生講座の開催 3回[A] ◆ 公開講座の開催 24講座 824人[A]
7-1. 文化の館における図書資料の充実 市民の知的財産である図書資料の充実を図り、多様化する市民の求める資料に応えます。 ◆ 図書館の入館者数 30万人 ◆ 図書の貸し出し冊数 45万冊 ◆ ビジネス支援図書の貸出冊数 2,700冊 ◆ 図書リクエストへの対応率 95% ◆ レファレンス（利用者からの資料・文献等の相談）への対応率 100%	【成果等】 目標を概ね達成しました。 多様化する市民の求める図書・資料の提供を行うとともに、図書館の利用促進に努めました。 ◆ 図書館の入館者数 29万人[A] ◆ 図書の貸し出し冊数 41万冊[B] ◆ ビジネス支援図書の貸出冊数 2,750冊[A] ◆ 図書リクエストへの対応率 97%[A] ◆ レファレンス（利用者からの資料・文献等の相談）への対応率 100%[A]
7-2. 市民との協働事業の推進 市民との協働事業として様々な分野で活躍している人を講師に招き、気楽な雰囲気の中で学ぶサロンを開催し、市民に知識や教養を深める場を提供します。また、地元の演奏家などを招いてコンサートを開催し、演奏家に発表の場を提供するとともに、音楽のある生活の豊かさを推奨します。また、市民協働パイロット事業「えきライブラリー」への連携支援を推進します。 ◆ 「ライブラリーカフェ」 12回 600人 ◆ 「カフェコンサート」 2回 300人 ◆ 「えきライブラリー」の貸し出し冊数 1,000冊 ◆ 「えきライブラリー」の返却冊数 1,400冊	【成果等】 目標を概ね達成しました。 市民との協働事業として「ライブラリーカフェ」「カフェコンサート」は12年継続して実施し、市民に知識や教養を深める場を提供しました。また、「えきライブラリーtetote」では予約本の受取りを可能とし、貸出冊数の増加に努めました。 ◆ 「ライブラリーカフェ」 12回 650人[A] ◆ 「カフェコンサート」 5回 333人[A] ◆ 「えきライブラリー」の貸し出し冊数 1,100冊[A] ◆ 「えきライブラリー」の返却冊数 1,160冊[B]
7-3. 子どもの読書活動支援の推進 未来を担う子どもたちの心を培うため、対象年齢別に子どもの読書支援イベントを実施します。学校、家庭、地域との連携協働を図り「学校図書館支援センター」を核として、学校図書ボランティアの育成に努めて、子どもの読書活動支援を推進します。 ◆ こどもの読書支援イベントの実施 ・「絵本とよちよち1・2・3」 12回 参加者数 200人 ◆ 学校図書館支援センター事業 ・「図書館司書の日」の実施 全小学校 各15回 ・こども読書感想文講座の実施 1回 参加者数 100人	【成果等】 目標を達成しました。 未来を担う子どもたちの心を培うため、対象年齢別に子どもの読書支援イベントを実施しました。学校、家庭、地域との連携協働を図り学校図書館支援を進めました。こども読書感想文講座は多くの参加を得、学校図書館研究部の教員との連携も図りました。 ◆ こどもの読書支援イベントの実施 ・「絵本とよちよち1・2・3」 12回 参加者数 205人[A] ◆ 学校図書館支援センター事業 ・「図書館司書の日」の実施 全小学校 各17回[A] ・こども読書感想文講座の実施 1回 参加者数127人[A]

<取組項目> 	<取組結果>
8-1. 文化財の調査、保存、啓発の推進 古墳群をはじめとする貴重な文化遺産を幅広く調査し、保存の処置を講ずるとともに、優れた伝統芸能や技術を継承する市民・団体の文化財指定も進め、文化財を後世に引き継いでいくための事業を推進します。また、市内の文化遺産や指定文化財について、市民がさらに理解を深め、その保存と活用について身近に考えることができるような事業を開催します。 ◆ 国・県・市指定登録文化財数 200件 ◆ まちかど歴史浪漫コンサートの入場者数 300人 ◆ 古墳見学会、現地説明会、郷土史出前講座の参加者数 800人	【成果等】 目標を概ね達成しました。 貴重な文化遺産を幅広く調査し保存の処置を講ずるための文化財指定も進め、文化財を後世に引き継いでいくための事業を推進しました。また、市内の文化遺産や指定文化財について、市民がさらに理解を深め、その保存と活用について身近に考えることができるような事業として、出前講座・文化財説明会を開催し、多数の参加者を得ました。 ◆ 国・県・市指定登録文化財数 203件[A] ◆ まちかど歴史浪漫コンサートの入場者数 250人[B] ◆ 古墳見学会、現地説明会、郷土史出前講座の参加者数 1,174人[A]
8-2. 文化活動への参加と、豊かな心を育む文化のまちの推進 郷土の歴史・伝統・芸術文化に身近にふれることにより、自信と誇りの持てるまちを創造するとともに、市民や子どもたちの郷土に対する愛着心の醸成を図り、ふるさと学習の推進に努めます。 ◆ 鯖江市美術展の開催 出品数 450点 来場者数 15,000人 気軽にアート展出品数 4,500点 ◆ ふるさと学習の参加者数 1,100人<再掲> (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、間部詮勝文化講演会等)	【成果等】 目標を概ね達成しました。 地域に対する愛着と誇りを継承して活性化を図り、夢を持てるまちづくりを推進し、子どもたちが様々な文化芸術に触れるとともに自らが主体的に取り組み、子どもの時から豊かな感性や表現力、創造性を育むことができるよう、文化芸術に直接触れる機会の充実に努めました。 ◆ 鯖江市美術展の開催(会期10日間→5日間へ変更) 出品数 413点 来場者数 6,760人[B] 気軽にアート展出品数 2,728点[C] ◆ ふるさと学習の参加者数 2,108人<再掲>[A] (まなべDEわくわくアートフェスタ、ふるさとさばえ検定、ふるさとさばえキッズ検定、近松入門講座、間部詮勝文化講演会等)
8-3. まなべの館を活用した文化活動への参加と、文化に触れる機会の提供 登録博物館であるまなべの館を活用して、市民が広く文化芸術にふれて、鑑賞・参加・創造することができる機会の提供を図ります。 博物館・美術館活動の中核をなす企画展開催事業を通して、市民に親しまれ、愛されるミュージアムを目指し、市の芸術文化振興と歴史資料の公開・活用を目的として開催します。“ものづくり”や“久里洋二アニメーション王国さばえ”を有効に活用し、全国レベルで活躍している作家の作品にふれることができる企画展および歴史資料に関する最新の調査研究成果を公開する企画展を開催し、芸術文化・郷土史とのふれあいを通じて、心身ともにバランスの取れた子どもたちの育成、高齢者の生きがい向上など幅広い世代が学び、遊び、楽しめ、親しみ、わかりやすい当館ならではの特色のある事業の推進を図ります。 ◆ まなべの館企画展開催事業来場者数 合計 5,000人 ・【新】ちびまる子ちゃん展inさばえ (3,000人) (さばえ昭和写真展同時開催) ・【新】祭りと祈りの原風景 (1,000人) ・【新】幕末明治写真展 (1,000人) ◆ まなべの館創造空間事業(貸館事業)来場者数 16,000人	【成果等】 目標を達成しました。 登録博物館であるまなべの館において、市民が広く文化芸術にふれて、鑑賞・参加・創造することができる機会を提供するために、夏休み期間中に親子で楽しむことができるマンガ系の企画展や歴史系の企画展を開催し、多くの来場者がありました。 鯖江出身の世界的なアニメーション作家、久里洋二氏を活用した“アニメーション王国さばえ”の一環として、アニメーションの芸術文化や身近に感じることができるふるさとさばえの歴史資料や写真の展示を通して、心身ともにバランスの取れた子どもたちの育成や高齢者の生きがい向上など幅広い世代が楽しく学び、親しむことができる当館の特色を活かしたオリジナルな事業を展開しました。 ◆ まなべの館企画展開催事業来場者数 合計 9,754人[A] ・【新】ちびまる子ちゃん展inさばえ (7,534人) (さばえ昭和写真展同時開催) ・【新】祭りと祈りの原風景 (1,020人) ・【新】幕末明治写真展 (1,200人) ◆ まなべの館創造空間事業(貸館事業)来場者数 17,500人[A]

<取組項目> 	<取組結果>																						
9. 生涯健康および生涯スポーツ社会の推進 総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団など、鯖江の恵まれたスポーツ環境を活用し、市民がそれぞれのライフスタイルに応じて、健康でいきいきとスポーツに親しめるまちづくりを目指します。また、スポーツ推進委員やスポーツ指導者と連携しながら出前講座やスポーツ教室などを開催し、誰もが生涯を通してスポーツを続けられる社会を推進します。 <table border="0"> <tr> <td>◆ スポーツ施設等の利用者数</td><td>350,000人</td></tr> <tr> <td>◆ スポーツクラブ会員数</td><td>2,500人</td></tr> <tr> <td>◆ 小学生のスポーツ少年団およびスポーツクラブの加入率</td><td>35.0%</td></tr> <tr> <td>◆ 小学校・老人団体等へのスポーツ出前講座</td><td>30回 700人</td></tr> <tr> <td>◆ 健康教室、ニュースポーツ教室・スポーツ交流事業</td><td>70回 1,000人</td></tr> </table>	◆ スポーツ施設等の利用者数	350,000人	◆ スポーツクラブ会員数	2,500人	◆ 小学生のスポーツ少年団およびスポーツクラブの加入率	35.0%	◆ 小学校・老人団体等へのスポーツ出前講座	30回 700人	◆ 健康教室、ニュースポーツ教室・スポーツ交流事業	70回 1,000人	【成果等】 目標を概ね達成しました。 (一社)鯖江市体育協会、総合型地域スポーツクラブ、市教委で組織する連絡協議会を通じて、各種スポーツ団体間の連携を強化しながら、「市民スポーツの日」などのスポーツイベントを通して生涯スポーツのまちづくりに努めました。また、総合型地域スポーツクラブや鯖江市スポーツ推進委員によるスポーツ教室・出前講座、健康教室などを通じて、誰もがスポーツに取り組むことのできるきっかけづくりに努めました。 <table border="0"> <tr> <td>◆ スポーツ施設等の利用者数</td><td>261,000人[C]</td></tr> <tr> <td>(*H28.4～H29.2総合体育館耐震改修工事)</td><td></td></tr> <tr> <td>◆ スポーツクラブ会員数</td><td>2,135人[B]</td></tr> <tr> <td>◆ 小学生のスポーツ少年団およびスポーツクラブの加入率</td><td>38.7%[A]</td></tr> <tr> <td>◆ 小学校・老人団体等へのスポーツ出前講座</td><td>72回 1,522人[A]</td></tr> <tr> <td>◆ 健康教室、ニュースポーツ教室・スポーツ交流事業</td><td>53回 2,428人[B]</td></tr> </table>	◆ スポーツ施設等の利用者数	261,000人[C]	(*H28.4～H29.2総合体育館耐震改修工事)		◆ スポーツクラブ会員数	2,135人[B]	◆ 小学生のスポーツ少年団およびスポーツクラブの加入率	38.7%[A]	◆ 小学校・老人団体等へのスポーツ出前講座	72回 1,522人[A]	◆ 健康教室、ニュースポーツ教室・スポーツ交流事業	53回 2,428人[B]
◆ スポーツ施設等の利用者数	350,000人																						
◆ スポーツクラブ会員数	2,500人																						
◆ 小学生のスポーツ少年団およびスポーツクラブの加入率	35.0%																						
◆ 小学校・老人団体等へのスポーツ出前講座	30回 700人																						
◆ 健康教室、ニュースポーツ教室・スポーツ交流事業	70回 1,000人																						
◆ スポーツ施設等の利用者数	261,000人[C]																						
(*H28.4～H29.2総合体育館耐震改修工事)																							
◆ スポーツクラブ会員数	2,135人[B]																						
◆ 小学生のスポーツ少年団およびスポーツクラブの加入率	38.7%[A]																						
◆ 小学校・老人団体等へのスポーツ出前講座	72回 1,522人[A]																						
◆ 健康教室、ニュースポーツ教室・スポーツ交流事業	53回 2,428人[B]																						
10. 市民が一体となった「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」開催の推進 プレ大会実施本部組織へボランティアスタッフを積極的に起用するにより、市民の理解と関心を深め、参加意識の高揚に努めます。 また、広報さばえ、市ホームページおよびSNSで、プレ大会でのボランティアスタッフの活動情報、地元出身選手活躍情報等を掲載し、市民協働のスポーツイベントとしての啓発に繋がります。 <table border="0"> <tr> <td>◆ 【新】体操競技プレ大会第70回全日本学生体操競技選手権大会</td><td></td></tr> <tr> <td>・ プレ大会へのボランティアスタッフの起用</td><td>100人</td></tr> <tr> <td>・ 広報さばえ、市ホームページへの掲載・更新回数</td><td>10回</td></tr> </table>	◆ 【新】体操競技プレ大会第70回全日本学生体操競技選手権大会		・ プレ大会へのボランティアスタッフの起用	100人	・ 広報さばえ、市ホームページへの掲載・更新回数	10回	【成果等】 目標を概ね達成しました。 県内最初の国体プレ大会として体操競技プレ大会を実施しました。運営にはボランティアスタッフも精力的に参画したことにより、体操競技に対する関心を高めただけでなく、来年の国体本番に向けた機運醸成の呼び水となりました。 また、広報さばえ、市ホームページおよびSNSで、プレ大会でのボランティアスタッフの活動情報、地元出身選手活躍情報等を随時掲載し、市民協働のスポーツイベントとしての啓発に努めました。 <table border="0"> <tr> <td>◆ 【新】体操競技プレ大会第70回全日本学生体操競技選手権大会</td><td></td></tr> <tr> <td>・ プレ大会へのボランティアスタッフの起用</td><td>82人[B]</td></tr> <tr> <td>・ 広報さばえ、市ホームページへの掲載・更新回数</td><td>10回[A]</td></tr> </table>	◆ 【新】体操競技プレ大会第70回全日本学生体操競技選手権大会		・ プレ大会へのボランティアスタッフの起用	82人[B]	・ 広報さばえ、市ホームページへの掲載・更新回数	10回[A]										
◆ 【新】体操競技プレ大会第70回全日本学生体操競技選手権大会																							
・ プレ大会へのボランティアスタッフの起用	100人																						
・ 広報さばえ、市ホームページへの掲載・更新回数	10回																						
◆ 【新】体操競技プレ大会第70回全日本学生体操競技選手権大会																							
・ プレ大会へのボランティアスタッフの起用	82人[B]																						
・ 広報さばえ、市ホームページへの掲載・更新回数	10回[A]																						